

編集後記 西村俊

Editorial Postscript Shun NISIMURA

インターネットの検索エンジンにも AI による概要表示が始まり、ChatGPT を始めとする AI Chatbot も日常的によく利用されている。研究開発の分野でもデータ駆動型と称される AI や機械学習などのデータ情報学の技術を用いた材料開発やプロセス最適化（マテリアルズインフォマティクス）が台頭し、「限られた研究者が使っているツール」から「プログラムやオンラインプラットフォームを通じて誰もが使いこなせるツール」へとさらに浸透しつつある。情報技術や通信網の発達により、年齢や世代・場所や時間を超越した知識や情報（時には技能までも）を当然の如く日常に取り入れた社会が形成されつつある。

コロナ禍を経て Netflix などの動画配信サービスが各家庭に浸透し、映画・ドラマ・アニメなどの作品が時空を超えて日常に押し寄せている。見たことが無かったものから懐かしなものまで日常から気軽に多様な作品へアクセスできる時代への変貌は、今の自分に新しい影響をもたらさうる作品との遭遇機会を増やし、結果としてこれから

の生活の豊かさや価値観を左右する個人の行動変容に繋がる可能性もある（同じ作品でも経験やタイミングで受ける印象が変わってくる）。動画配信に限らず、どのように生活の中できっかけとなるキーワードに巡り合い、直接の興味・関心へと繋がるのかが探索・探求行動を大きく左右する。

核家族化が進み、地域社会の繋がりが密ではなくとも生活を営むことができる現代社会の仕組みの中で、かつての価値や存在に触れる機会すら無いことも増えている。後世に継承したい事象をどのように残し身近なアクセスを保証できるのか。サービスエリアと道の駅（北陸道：南条）・滞在するホテル（京都縦貫自動車道：京丹波）との複合的な場を創出することで、滞留時間を延ばしその地域を知る仕組み（ex. 山野草の食べ方や鳥獣の存在も知らない世代に特産品として提供・出会う機会の創出）も作られている。目的地とは異なる寄り道や道草をきっかけとした偶然の遭遇（出会い・体験）が、次の時代の伝承や継承の始まりとして要となってくるのかもしれない。

民族植物学ノオト 第 18 号 (2025) ISSN 1880-3881

発行日： 2025 年 3 月 30 日

発行所： 特定非営利活動法人 自然文化誌研究会

発行責任者： 植物と人々の博物館 木俣美樹男、西村俊

所在地： 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

自然文化誌研究会

Ethnobotanical Notes No. 18 (2025) ISSN 1880-3881

edited by Mikio Kimata and Shun Nishimura (Plants and People Museum)

The Institute of Natural and Cultural History (INCH),

3337-2 Kosuge, Kitatsuru-gun, Yamanashi 409-0211 Japan